

【助成採択者情報】 ※申請書記載内容に基づく

採 択 年 度

2025 年度

氏 名

上田 一仁

所 属 機 関

名古屋大学医学部附属病院

総合周産期母子医療センター 新生児部門

課 題 名

「NICU 領域における緩和ケア、終末期ケアのあり方」に関する修正デルファイ研究

助 成 額

1,000,000 円

研究報告概要

近年、小児緩和ケアの重要性が認識されてきている。その中でも、日本では年間 1000 名を超える 0 歳児が亡くなっており、そのうち 400 名以上が早期新生児期に死亡している。こうした背景から、新生児への緩和ケア、終末期ケアは極めて重要である。

そこで本研究では、修正デルファイ法を用いて、「NICU 領域における緩和ケア、終末期ケアのあり方」を検討し、ガイドを作成、公表することを目的とする。

具体的には「NICU 領域における緩和ケア、終末期ケアのあり方」について、まず診療録からの実態調査と文献のスクーピングレビューを行う。その後、専門家討議、適切性評価調査を行い、NICU での緩和ケア、終末期ケアのガイド案を作成する。そしてガイド案に関する遺族への質問調査を経て、ガイドを作成し公表する。

これらを修正デルファイ研究として学会発表、英文論文化を行う。

診療録からの実態調査の研究対象は、2022 年 1 月から 2024 年 12 月に 3 施設の NICU で死亡した新生児とその遺族とする。また、ガイド案に関する遺族への質問調査では適格基準と除外基準を設けた上で、予定対象者を 10 名と設定する。

まず、診療録から後方視的検討を行い、NICU での緩和ケアや終末期ケアの実態を調査する。

次に文献のスクーピングレビューを行い、これまでの研究から指摘されている因子を抽出する。その後、専門家討議、適切性評価調査を複数回行い、NICU での緩和ケア、終末期ケアのガイド案を作成する。そしてガイド案に関する遺族への質問調査を経て、ガイドを作成し公表する。

研究にあたり、診療録の後方視的検討では、オプトアウト方式により情報公開による拒否機会を保障する。また、遺族調査では患者団体、遺族団体を通じた検討、もしくは研究代表者、研究分担者、共同研究者の施設内での検討により、対象者を慎重に検討するとともに、事前に十分な説明を行った上で同意を取得する。遺族の心理的負担への配慮として、患者団体や遺族団体の運営者や各施設の心理士等に仲介役としてゲートキーパーを依頼する。遺族調査実施の際にはゲートキーパーにフォローアップを依頼し、個別のカウンセリングが必要になった場合は専門家を紹介する。そして遺族調査等の実践のある研究者が調査にあたる。

本研究により新生児への緩和ケアの実態が明らかになる。さらに修正デルファイ法により「NICU 領域における緩和ケア、終末期ケアのあり方」を検討しガイドを作成することで、新たなエビデンスを創出できるとともに、日本での NICU での緩和ケアや終末期ケアを向上させ、各施設や地域での新生児、周産期緩和ケアを見直す契機がもたらされる。